

学会彙報、奥付

雑誌名	漢文學會々報
巻	23
ページ	47-53
発行年	1964-06-25
URL	http://hdl.handle.net/2241/00148604

學會彙報

○昭和三十八年度漢文學會總會

〔漢文教育研究会〕 六月二十二日（土）

於都立志村高校

一、研究授業

三年、漢文

二年、漢文

一、研究會

(イ) 開會の辭

(ロ) 當番校挨拶

(ハ) 教授者説明

(ニ) 質疑應答

(ホ) 閉會の辭

〔研究發表會〕 六月二十三日（日）

於東京教育大學

一、王充における頌漢思想の必然性について

一、太平御覽引論衡について

一、墨子の兼愛思想について

一、屈延木簡における鑽炊改火について

一、書道史上から見た甲骨文字と金文について

實施者 宮澤 康造氏

望月 眞澄氏

鎌田 委員

鎌田 委員

志村高校長 小嶋 亮次氏

國語科主任 宮澤 康造氏

宮澤 康造氏

望月 眞澄氏

内野委員長

司會 鈴木、今井、中村委員

大學院 大久保隆郎氏

大學院 清水 榮氏

大學院 高橋 均氏

高松、高専 藤原 高男氏

一、王莽の符命について

一、萬葉集の虚構性作品と中國文學

一、鈴木松塘と喪杖——性靈説の系譜の一例——

一、屈原傳と楚辭の漁夫

〔總會〕

一、開會の辭

一、報告並に談事

(1) 議長選出(田波又男氏)

(2) 各部報告

(イ) 庶務報告

(ロ) 研究一報告

(ハ) 研究二報告

(3) 議事

(イ) 昭和三十七年度收支決算

(ロ) 昭和三十八年度豫算

(ハ) 會則改正について

委員を選出して、改正案を作成することとする。委員として左の各氏が選出された。

鈴木 修次、今井宇三郎、安居 香山、小嶋 政雄、

田部井文雄、中村 嘉弘(大學院)小野 勝(學生)

一、閉會の辭

〔懇親會〕

都立上野高校 塚田 清策氏

東京教育大學 安居 香山氏

熊本女子大學 古澤未知男氏

和歌山大學 松下 忠氏

大東文化大學 小嶋 政雄氏

司會者 緒形 委員

司會者 緒形 委員

安居 委員

鎌田 委員

今井 委員

志賀 委員

志賀 委員

志賀 委員

志賀 委員

志賀 委員

志賀 委員

志賀 委員

志賀 委員

志賀 委員

志賀 委員

志賀 委員

志賀 委員

○講演會

昭和三十八年六月七日(金) 於東京教育大學

「第二の敘情」——中國詩の二つの様相——

慶應義塾大學教授 奥野信太郎氏

○昭和三十八年度月例會 [四、九、一月は第三土曜で、その他第一土曜の、午後一時開催]

○四月二十日(土) 例會

最近中國に於ける孔子評價の論争について

大學院 高橋 均氏

○五月十八日(土) 例會

六朝志怪に於ける説話形成

——搜神記を中心とする説話形態分析の一方法——

大學院 高橋 稔氏

○七月六日(土) 例會

太平御覽引論衡について

大學院 清水 榮氏

○九月二十八日(土) 例會

蘭亭序に關する疑問

大學院 田中 有氏

○十一月三十日(土) 例會

書評、鈴木由次郎著「漢易研究」

今井宇三郎氏

○一月廿五日(土) 例會

歌行と送別——岑參詩を中心として——

大學院 中村 嘉弘氏

○二月十五日(土) 例會

史記索隱の注釋文的考察

大學院 宮内 保氏

「王維の詩における「空」と「白雲」

大學院 鈴木 修次氏

茅盾の處女作「蝕」について

戰國策諸篇に於ける紀年の問題

○昭和三十九年度漢文學關係講義一覽

(一) 一般教育科目

小林 教授 漢文學講讀

鎌田 教授 (思想)

(二) 外國語

牛島助 教授 中國語 (文學)

長谷川 講師 (文法)

陳 講師 (講話)

志村 講師 (作文)

藤堂 講師 (會話)

賴 講師 (文法、作文)

伊藤 講師 (讀本)

伊藤 講師 (讀本)

伊藤 講師 (讀本)

伊藤 講師 (讀本)

伊藤 講師 (讀本)

伊藤 講師 (讀本)

伊藤 講師 (讀本)

伊藤 講師 (讀本)

伊藤 講師 (讀本)

伊藤 講師 (讀本)

伊藤 講師 (讀本)

伊藤 講師 (讀本)

伊藤 講師 (讀本)

伊藤 講師 (讀本)

伊藤 講師 (讀本)

伊藤 講師 (讀本)

大學院 平松 辰雄氏

緒形 暢夫氏

鎌田教授 中國思想史演習（孟子集註）

〃 日本漢文學演習（文華秀麗集）

河野教授 中國言語學概論

牛島助教 中國言語學演習（老舍、全家福）

鈴木助教 中國文學概論

〃 中國文學演習（杜甫、律詩）

〃 中國文學演習（宋代古文）

陳講師 中國語學講讀（今古奇觀）

前野講師 中國文學史（宋代）

丸山講師 中國文學講義（魯迅）

小林（芳）講師 日本漢文學特講

四 大學院科目

内野教授 金文辭大系、淮南子講義

小林教授 王注老子講義

鎌田教授 春秋學講義

牛島助教 六朝文法講義

鈴木助教 唐詩の綜合的研究

○會員著書

一、鎌田 正著「左傳の成立と其の展開」(昭三八・三)

一、加賀榮治著「中國古典解釋史・魏晉篇」(昭三九・三)

(四十頁下段より続く)

(注5) 『怪現狀』發財秘訣』などがあげられよう。なおこの點に

ついては、中野美代子『清末小説研究・その四・吳趸人ノオ

ト』(北海道大學外國語・外國文學研究Ⅷ、一九六〇)がある。

(注6) 『恨海』第一回到「中國で「情」といわれるのは「痴」ないし

「魔」とよぶべきもので、眞の「情」は忠・孝・慈・義などと

なるものである」として、更に、『俗人但知兒女之情、是情、

未免把這個「情」字看的太輕了。並且有許多寫情小説、竟然不

是寫情、是在那裏寫魔。寫了魔、還要說是寫情。眞是筆端罪

過』といつてゐる。

(注7) 例えば、『恨海』と同年に發表(二十回のみ)された曾樸

『孽海花』においても、すべて外觀によつて人物を描いてゐる。

(注8) 『新厂』(周桂笙)は『蓋寫情小説、大抵總不出「悲歡離合」

四字。今是篇……(中略)……有悲無歡、有離無合』と評して

いるその他、報癖による評或は『舐菴漫筆』の評などがある。

(注9) 吳趸人『兩晉演義』序に、『夫蹈虛附會、誠小説所不能免

者、然既蹈虛附會矣、而仍不免失於簡略無味、人亦何貴有此小

說也、人亦何樂此小説也』という。(大學院修士課程)

○東京教育大學漢文學會々則

- 一、本會は東京教育大學漢文學會と稱し、事務所を東京教育大學漢文學研究室に置く。
- 二、本會は漢文學及び漢文教育の研究と普及とを圖るのが目的である。
- 三、本會の會員は左の通りである。
 - 1 東京教育大學漢文學・東洋文學及び東京文理科大學、東京高等師範學校の漢文學關係教官(退官者を含む)
 - 2 東京教育大學漢文學大學院中國古典學專攻學生及び卒業生、並に東京文理科大學漢文學・東京教育大學東洋文學專攻卒業生
 - 3 その他入會を希望する者
- 四、本會の主な事業は左の通りである。
 - 1 總會 年一回
 - 2 例會 年約七回
 - 3 會報及び會員名簿の發行
 - 4 その他必要な事項
- 五、本會の役員は左の通りである。

委員長 一名
委員 若干名
- 六、委員長は本會を代表し委員とともに運営に當る。
- 七、委員は委員會を組織し會の研究會計庶務を分擔する。

委員長は委員の互選による。

委員は東京教育大學學生中から六名、その他から若干名(一般會員より四名、及び東京教育大學助手)を會員の互選(學生委員は學生の互選)によつて選舉する。その任期は二年(學生委員は一年)とする。但し重任は差し支えない。
- 八、會員は會費年額四百圓(但し學生は半額)を納める。
- 九、本會會則の變更は委員會の審議を経て總會出席者の過半数の承認を得なければならぬ。

後記

○昨年に引き続き、本年も會報を發行することができましたのは、會員諸氏の各方面よりする御協力の賜物である。今後益々學會發展のため御協力をお願いいたします。

○本年も幸にして、東京都内の共立社で印刷することができ、萬事好都合でありました。殊に正字が自由に使えてうれしい。發行期日も厳守してくれました。ここに共立社に對しまして深甚の謝意を表します。

(鈴木・今井)

漢文學會々報第廿三號

昭和三十九年六月二十日 印刷
昭和三十九年六月廿五日 發行

(非賣品)

編輯者

東京教育大學漢文學會

鈴木 修 次

今井 宇三 郎

印刷所

東京都千代田區神田神保町三ノ一〇

株式會社 共立社 印刷所

電話 二一〇二八

發行所

東京都文京區大塚窪町二四

東京教育大學漢文學會

振替東京四七六〇〇番

支那文を
讀む爲の **漢字典**

田中慶太郎編譯
文求堂版重印
新書版六六〇頁
金六百八十円

東京都千代田區神田神保町二丁目七番地

有限會社 **山本書店**

電話九段 〇八四七番
振替東京 五九九五〇番

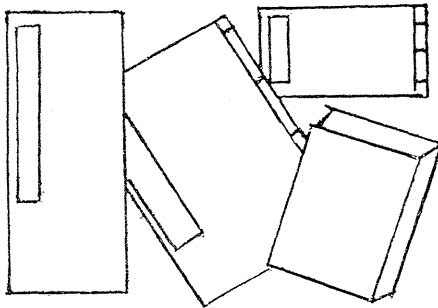
中国原書・中国關係洋書の
御用命は

極東書店

本社 東京都千代田區神田神保町二の二
(振替) 東京一〇〇〇〇九(電) (261) 六四三一
七六一七

營業所
大阪市北区永楽町三三 (312) 〇二三四
京都市上京區河原町通り荒神口下ル
(振替) 京都五八二九(電) (23) 二〇九三

和漢古書籍賣買



松雲堂書店

東京都千代田區神田神保町3~1
電話・東京 九段 〇6498

金瓶梅詞話 明萬曆本影印 全五册 二萬圓
殷代社會史料徵存 一二〇〇圓
新編事文類要 啓劄青錢 三八〇〇圓
德山毛利家所藏本影印
中國思想史資料 — 先秦篇 土曜談話會編刊 二〇〇圓

中國關係圖書專門 **大安**

東京都千代田區神田神保町二丁目四
振替東京一九二六一 電話(二六一)一六一二

少僅部殘!

東京教育大學教授
文學博士 鎌田 正著

左傳の成立と其の展開

限定版

● 第一編「左傳の眞偽と成立に關する研究」
● 第二編「左傳の表章と左氏學の展開に關する研究」
本書は、著者の學位論文で、多年春秋學の研究に従事せる成果を發展した、畫期的な力作である。春秋左氏學研究に必須の書。

A 五判／八〇〇頁／函入り／定價四〇〇〇圓

東京 東區 湯島 聖堂 (お茶の水驛下車)
振替東京 40504
神田 錦町 3-26
東 錦町 3-26
大修館書店

尚学図書の高校教科書

☆ 現代国語一	新選古文一 (古典乙Ⅰ)
☆ 現代国語二	新選古文二 (古典乙Ⅱ)
☆ 現代国語三	新選漢文一 (古典乙Ⅰ)
☆ 新選古典 (古典甲)	新選漢文二 (古典乙Ⅱ)

新選古典文法 定價100円 P. 144	現代国語演習一 定價100円 P. 96
当用漢字便覧 定價100円 P. 128	現代国語演習二 定價100円 P. 96

小学館の辞典

漢文学習のための初のポケット版
新選 漢 和 辞 典

小林 信明 編
B 6 小版・1120ページ・定價480円

書籍文物流通會會友募集

弊會誌「中國菜」(一期四冊)は中國料理専門誌と銘うっているのですが、只に中國料理の範圍にとどまらず、廣く中國學術的隨想に及んでたます。

なお、會友の方々には弊誌を無償配布するだけでなく、弊會の營業、即ち、書籍・書畫・骨董の賣買、中國學關係の出版、出張講習中國料理試食會、中國服の調製等に關し特別の御相談に應じます。

賞味しながらお料理を學ぶ集い

書籍文物流通會 中國料理出張講習料理教室 試食會案内

中國料理の普及は、最近特にめざましく、世界料理の感があります。

本會中國料理部は、これまで出張料理を主と致し、皆様から特別の御愛顧をいただきましたが、この度更に各方面からの御要請に應え、會誌「中國菜」の刊行と共に、中國料理の講習會を開いております。

中國料理を通じて、中國の風俗・文化にまで理解を深めて頂き、日中文化の交流に貢獻出來ますれば、甚だ幸いでございます。

東京都文京區湯島聖堂(お茶の水驛下車)

株式會社 書籍文物流通會

振替東京二一九九六番
電話(81813)一七〇六・二七〇七
四六〇六

文部省検定済教科書

監修 東京教育大學教授 文部 内野熊一郎他
古典 018 高等 漢 文 (古典乙一)

特色

- 一、「經史子集」の分類に準じた單元構成
- 一、能力段階に應じ易より難へと配列
- 一、各學年で詩文類・史傳類・經子など學習可能
- 一、基本句型・重要助辭等を整理
- 一、便宜・効果的な付録

大原出版株式會社

東京都澁谷區宇田川町三〇
電 (46) 三六〇・七三九・八九二

91円

文部省科學研究獎勵金
東京都教育助成金 受領

標準學力検査研究會による

高校標準學力テスト

- 一、學年別、年四回(四、六、九、十二)發行
- 二、國數英の三科目を新傾向問題で出題
- 三、各回毎に、全國集計、全國順位發表

東京都新宿區市谷砂土原町二一七

標準學力検査研究會

(振替東京六四九七番、電三〇、二四二)

事務所 敬文社 (振替一四八九八番)
電二六〇、二〇四六

標準 高等漢文

(古典乙一)

著者・小林信明

教科書 講談社版

高等學校・國語科

言語・文字・文學などと、特に、わが國に深い関係にある古典としての漢文に親しみ、これを讀解し、これを鑑賞する能力を身につけ、ひいては思考力や判斷力を延ばし、また、心情を豊かにし、さらに新しい文化の創造に資するやうにというのが、この編集の要趣であり、その構成の上には、導入・單元・表記に著しい特色を出した。

○教番 古典 045
○定價 91圓

わが國の豊かに惠まれた古典を享受し、新しい文化發展の力を培おうとする。高等學校の古典學習の理想が實現できるやうに、あらゆる考慮の末、形式・内容に大きな特色をもたせた。

○教番 古典 044
○定價 114圓

標準 高等古文 (古典乙一)

著者・川瀨一馬・馬淵和夫

發行所 東京・文京・音羽 講談社